

天声人語

部屋には時計でなく、砂時計を置きたい。静かで安らかな気持ちになるからだと、ドイツの作家ユンガーが『砂時計の書』で書いている。機械時計にしばられない贅沢さを、作家はたたえた遠い昔へのあこがれでもある。今のように時間に沿って仕事を始めて終えるのではない。そこに現れることが仕事のではない。概念も、そもそも希薄だったのかもしれない▼急いで物事をこなし、決められた始まりを意味した。時間に遅れるという概念も、そもそも希薄だったのかもしれない▼急いで物事をこなし、決められた時間に間に合わせることに、達成感を得る。時間に追われて失っているものがあるのに、その時は気が付かない。そんな仕事をしていると、ミヒヤエル・エンデの『モモ』のような寓話にどきりとする▼あなたの時間を銀行に預ければ、増やせます——。そう言われて時間の節約に励む人々に、現代の私たちが重なる。床屋は客とのおしゃべりをやめ、急いで仕上げるようにしたところ、ちっとも楽しくなくなつた。仕事の持つている豊かさが、損なわれただろう▼株式市場では1千分の1秒単位のコンピューターライブが広がる。人間にあらざるもののが主役になる。機械の管理は人間の手によるが、かつての株の仕事とは別物だらう▼きようは「時の記念日」。7世紀に日本で初めて水時計が使われたとの説による。流れ出た水の量で時間を計る牧歌的な時代から、ずいぶん遠いところまで来た。せめて気持ちが落ち着くのかどうか、砂時計を試すくらいはしてみようか。

2016・6・10